hearthstone
select collection
SOAPSTONE

Phoenix (Model 8612) Wood Stove



OWNER'S MANUAL

フェニックス （モデル 8612）
オーナーズ・マニュアル
取扱説明書

お使いになる前に必ずお読みください。
また、必要なときに参照できるよう大切に保管してください。

We recommend that our products be installed and serviced by professionals who are certified in the U.S. by NFI (National Fireplace Institute).
www.nficertified.org

ハースストーン日本総輸入元
長野総商株式会社
〒389-0207　長野県北佐久郡御代田町馬瀬口 1625-83
Tel: 0267-32-2353 / Fax: 0267-32-2690

目次

はじめに 3

ご使用上の注意 3
安全のために 3
定期点検チェックリスト 4
緊急時には 4

製品仕様 5

ストーブの操作について 6

コントロールと機能 6
薪について 6
慣らし焚き 7

毎日のご使用について 8

点火方法 8
燃焼温度 8
焚きすぎの注意 9
灰の処理方法 9

メンテナンス 9

ストーブ温度のチェック 9
クレオソートの形成と除去について 9
ガスケット 10
ガラス 10
ソープストーンお手入れ方法 11
鋳鉄のお手入れ方法 11

トラブルシューティング 12

パーツリスト 14

はじめに

フェニックス（モデル 8612）は、米国 EPA（米環境保護局）認定クリーンバーン方式の薪ストーブです。触媒式ストーブに必要なメンテナンスの手間やコストを抑えながら、クリーンで心地よい暖かさを提供します。クリーンバーン方式という先端技術と、鋳物の美しさを融合したハースストーン社のストーブをお楽しみください。

この取扱説明書は、ストーブの安全、慣らし焚き、操作方法、メンテナンスについて理解していただくためのものです。いつでも参照できるよう、お手元に保管してお持ちください。

ご使用上の注意

- ストーブや煙突の近くに衣類、家具、カーテン、紙などの燃えやすいものがないことを確認してください。
- ガソリン、灯油などの可燃性の液体をストーブの側に置かないでください。
- 小さなお子様がいらっしゃる場合はハースゲート等を設置し、ストーブや煙突に近づけないようご注意ください。
- ストーブ使用中は高温になりますので、火傷にご注意ください。
- 通常使用を始める前に、最低３回（３日）は必ず慣らし焚き（７ページ）を行ってください。
- よく乾燥させた薪を燃やしてください。
- 熱くなったストーブに薪を補充する際は十分注意し、補充時以外はドアを閉めておいてください。
- 灰受け皿は常に取り付け、アッシュドアはしっかりと閉めてください。
- 煙突の点検を行ってください。
- アッシュリップ（５ページの図参照）は必ず取り付けた状態でお使いください。アッシュリップを取り付けていないと床の表面温度が上がりすぎてしまう危険性があります。

注意：

慣らし焚きの最中で、まれにストーブの底面より黒い液体が少量滴ることがあります。これは低温燃焼で行うために生じるもので、慣らし焚きが完了すればおさまります。炉台が汚れる可能性がありますので、気になる場合には事前にストーブの下や足元に不燃性のものを敷くなどして炉台を保護してください。

安全のために

- ストーブを決して改造しないでください。
- キルン乾燥材、塗装木材、処理済木材、溶剤、ゴミ、合板、カラー紙、光沢紙、ボール紙、石炭、流木は燃やさないでください。*特に、このストーブで石炭は決して燃やさないでください。*
- ガソリンタイプ燃料、灯油、木炭用ライターオイル、または他の液体燃料を着火目的や燃焼を促進する目的で使用しないでください。これらの燃料は酸素を使い果たし一酸化炭素を発生させる恐れがあります。ストーブの側には決して置かないようご注意ください。
- アッシュドアの損傷時や、アッシュドアを開けた状態でのストーブ使用は控えてください。
- フロントガラスに薪を立て掛けたり、ガラスに触れた状態で使用しないでください。
- ドアをバタンと強く閉めたり、ドアで薪を押し込むことはしないでください。
- 燃やしすぎないようご注意ください。（焚きすぎの注意：９ページ）
- 衣類やキャンドルなどを熱くなったストーブに載せないでください。
- 他のストーブに接続された煙突に接続しないでください。

その他

- 家具、カーテン、衣類などの移動可能な可燃物は、ストーブから最低１メートル離してください。
- 薪ストーブから離れた場所に煙探知器を設置することをお勧めします。

- 万一の場合に備え、消火器は手の届く場所に用意しておきましょう。
- 灰は適切に処理してください。（灰の処理方法：９ページ）
- お子様やペットがストーブに近づかないようご注意ください。火傷の恐れがあります。
- 必要に応じて煙突掃除を行ってください。

定期点検チェックリスト

毎週

- ✓ 炉内と灰受け皿の灰をチェックし、必要に応じて灰を処理してください。

隔月

- ✓ 使用頻度に応じ、煙突内のクレオソートをチェックしてください。（９ページ参照）
- ✓ “ドル紙幣テスト”と言われる方法で、ドアガスケットをチェックしてください。ストーブが冷めた状態のときに紙をはさんでドアを閉め、そのまま抵抗なく紙を抜き取ることができるようであれば、ガスケットの交換時期です。

シーズンの終わりに

- ✓ 煙突を点検し、必要に応じて煙突掃除を行ってください。
- ✓ 炉内の掃除を行ってください。
- ✓ ドアガスケットをチェックし、磨耗、擦り切れ、亀裂や極度に硬くなっている場合には交換してください。

緊急時には

万が一、煙道火災が発生した場合、火災が激しいときは、直ちにその場を離れ、消防に連絡をしてください。火災が軽度の場合は以下の手順で対応してください。

1. プライマリーエアーコントロールを閉めてください。
2. もしあれば、ストーブパイプのダンパーを閉めます。
3. フロントドア、アッシュドアをしっかりと閉めた状態にします。

煙道火災発生時の注意

ストーブ本体、煙突に決して水をかけないでください。煙道火災は大変高温になりますので、瞬間的に水蒸気を発生させ、身体的危害を引き起こす原因になります。

煙道火災がおさまった後もプライマリーエアーコントロールは閉めたままにし、ストーブ内の炎が完全に燃え尽きるまで待ちます。ストーブや煙突の点検を行い、損傷部分の交換または修理が終わるまでは、決してストーブを使用しないでください。

製品仕様

最大出力	15,120 kcal/hr
暖房面積	185 ㎡ (56 坪)
最大薪長さ	53 cm
ストーブ寸法	h692 x w710 x d510 mm
フロントドア寸法	w430 x h270 mm
使用煙突径	6 インチ
重さ	193 kg

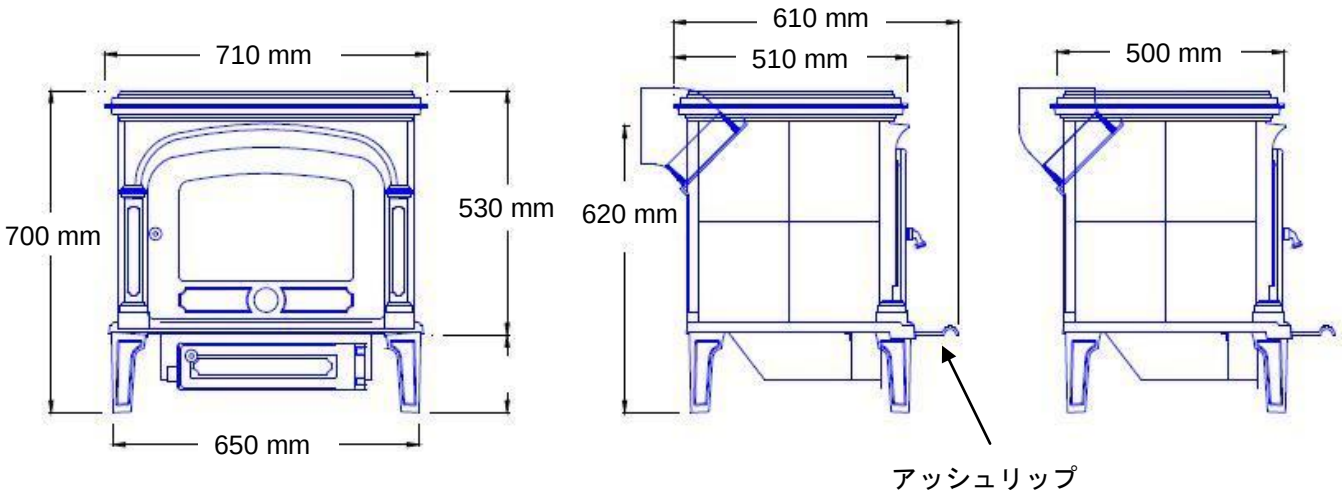
サーモセラミック製バッフルについて

ハースストーン社のストーブにはサーモセラミック製バッフルを使用しています。（炉内上部のバーナーチューブ真上にある白いシート状のものです）

バーナーチューブの真上に使用することで二次燃焼が行われる部分を高温に保ち、燃焼効率を上げ、結果的に煙の排出量の削減に役立ちます。サーモセラミック製バッフルは、軽量で耐久性に優れ、腐食や錆びはありませんが、崩れやすいため、取扱いにはご注意ください。

薪の補充時や掃除の際には、サーモセラミック製バッフルを傷つけないよう特にご注意ください。

薪や煙突掃除用ブラシが当たると損傷することがあります。もし穴が開いたり裂けてしまったまま使用しますと、ストーブの機能に影響を及ぼしますので、交換してください。



ストーブの操作について

- ✧ 使用中はストーブが大変熱くなりますので、お子様が近づかないようご注意ください。また、ストーブの側に可燃物を置かないでください。

コントロールと機能

フロントドアハンドル（ドアが閉じた状態では、ドアハンドルは７時の位置にあります。）
開くとき：ドアハンドルを時計回りに 10 時の方向へ回します。
閉めるとき：ドアをしっかりと閉じ、反時計回りに７時の方向へ回します。ハンドルを引き、閉じていることを確認します。

プライマリーエアーコントロール
ストーブ正面左下にあるハンドルを使って調節します。プライマリーエアーコントロールはストーブ内に入る空気の量を調節します。空気を入れるには左に動かし、空気量をしぼりたいときは右へ動かします。空気量が多いと燃焼は加速し高温になり、少ないときはゆっくり燃焼します。

灰受けドア／アッシュドア（閉じた状態では、ドアハンドルは６時の位置にあります。）
開くとき：ドアハンドルを反時計回りに３時の方向へ回します。
閉めるとき：ドアをしっかりと閉じ、時計回りに６時の方向へ回します。ハンドルを引き、閉じていることを確認します。

灰受け皿（アッシュパン）
灰受け皿とアッシュドアは、アッシュリップの下にあります。灰受け皿は炉内の灰を集め、より便利に灰を処理できるものです。炉床にあるグレートを動かして灰を灰受け皿に落としたら、グレートを閉じた状態に戻し、灰受け皿を引き出して灰を処理してください。灰受け皿を取り出すときは一度奥へ強く押し込み、灰受け皿の中の灰を均等にしてから引き出します。
灰の処理はストーブが冷めた状態で行ってください。灰受け皿がまだ温かい場合には革手袋をお使いください。灰を扱うときには細心の注意を払ってください。

灰受け皿が納まっていない時や、アッシュドアが開いた状態では、決してストーブを使用しないでください。過度燃焼を引き起こし、ストーブの損傷の原因になります。

薪について

フェニックスは薪専用のストーブです。
化学薬品、またはガソリン、ナフサ、灯油、木炭用ライターオイル、エンジンオイルなどの可燃性の液体を着火剤として使用しないでください。木炭、ペレット、石炭などの薪以外の燃料を使用しないでください。また、ゴミを燃やさないでください。

熱量、燃焼時間、ストーブの性能には、薪の質が影響します。軟木（針葉樹）はすぐに火力が上がりますが火持ちが悪く、一方で堅木（広葉樹）は火持ちがよくて炭が多くでき、暖める力が大きいため、理想的な薪であると考えられます。
薪の水分含有量も、ストーブの性能に大きく関わります。切ったばかりの生木には水分が多く含まれ、なかなか燃えません。薪ストーブで使用するには、事前によく乾燥させることが重要です。割った薪は日当たりがよく風通しのよい場所に積み、少なくとも一年間乾燥させます。薪は直接地面に触れないよう木製のパレットやブロックの上に積み、また雨に濡れないよう一番上だけ覆いをします。側面を防水シートなどで覆ってしまうと水分が逃げず、乾燥しません。薪を積むときのポイントは、“ネズミは通れるが、ネズミを追いかけるネコは通り抜けられないぐらいの隙間”を開けることと、アメリカ、バーモント州では古くから言われています。

慣らし焚き

本格的なご使用の前に､ゆっくりとストーブを慣らしていきます｡**新しいストーブを一気に高温で使用すると、ソープストーンやその他の部品に割れや破損が生じる恐れがあります。**ソープストーンには水分が含まれているため、ゆっくりと低めの温度で数回慣らし焚きをして乾燥させます。慣らし焚きにより、組み合わされた各部品も馴染んできます。
焚き始めにはストーブや煙突表面から煙や匂いが出ますが、これは表面の塗料が焼けたもので、通常 10～20 分でおさまります。必要であれば窓を開けて換気をしてください。

取扱説明書に忠実に慣らし焚きを行い、その後も正しくお使いいただければ、鋳鉄部分とソープストーン部分ともにトラブルなく長い間お使いいただけるでしょう。ご使用とともにソープストーンの色は変化し、表面に細かいひびのようなものが見られる場合がありますが､これらはストーブの性能に影響を及ぼすものではなく､ストーブごとの個性や特徴に過ぎません。

注意：
慣らし焚きの最中で、まれにストーブの底面より黒い液体が少量滴ることがあります。これは低温燃焼で行うために生じるもので、慣らし焚きが完了すればおさまります。炉台が汚れる可能性がありますので、気になる場合には事前にストーブの下や足元に不燃性のものを敷くなどして炉台を保護してください。

ソープストーンや鋳鉄部分が破損する恐れがありますので、以下にご注意ください。
- ストーブの中に薪を投げ入れないでください。
- フロントドアを使って薪を押し込まないでください。
- 表面の凍った薪を燃焼中のストーブの中に入れないでください。熱衝撃により破損する恐れがあります。
- 炉内には既製品のグレートやロストルを置かず、炉床の上で直接薪を燃やしてください。

炉床のファイヤーブリックは炉床を熱から保護するためのものですので、決して取り外さないでください。

慣らし焚きの手順

① フロントドアを開け、着火剤か、きつくねじった新聞紙５，６本を炉内中央に置きます。その上に小割りにした焚きつけ（直径 15 ミリ程度）を 10 本ほど交差させて置きます。
② プライマリーエアーコントロールをいっぱいに開きます。（左下の空気調節レバーを左に動かします）
③ 着火剤（新聞紙）に点火します。焚きつけに火が着いて上昇気流（ドラフト）が起こるまで、少しの間フロントドアをかすかに開けた状態にします。
④ フロントドアを閉めます｡ストーブの使用中はフロントドアとアッシュドアが閉まっていることを確認してください。グレートも閉じた状態であることを確認してください。
⑤ 低温での燃焼を維持するよう**ストーブから目を離さないようにしてください**｡最初の燃焼ではストーブを暖めるのが目的なので、**触れないほど温度を上げないように注意してください**。多くても、細めの薪を２，３本足す程度で安全な慣らし焚きに必要な温度に達するはずです。
⑥ ストーブが暖まったらプライマリーエアーコントロールを閉め、薪が燃え尽きるまで燃やします。
⑦ ストーブを室温になるまで冷まします。

慣らし焚きは最低３回（または３日）、上記手順で必ず行ってください。最初のご使用前だけでなく、毎年のご使用前には同じ手順で一回慣らし焚きを行うことをお勧めします｡毎年これを続けることでストーブは整えられ、きちんと応えてくれます。

注意：慣らし焚きでは煙突内の温度が低いためクレオソートが付着しやすく、またフロントガラスに汚れが付きやすくなります｡慣らし焚き終了後はストーブパイプや煙突を点検し､必要であれば掃除を行ってください。

毎日のご使用について

長期間使用していなかったときやシーズンの初めには、通常使用を開始する前に最低一回は慣らし焚きを行ってください。急激な熱によってかかるストレスを軽減する働きがあります。また、ご使用前に、グレートとアッシュドアが閉まっていることを確認してください。開けたまま使用を続けると焚きすぎにより、ストーブの損傷を招きます。

点火方法

① フロントドアを開け、着火剤か、きつくねじった新聞紙５，６本を炉内中央に置きます。その上に小割りにした焚きつけ（直径 15 ミリ程度）を 10 本ほど交差させて置きます。
② プライマリーエアーコントロールをいっぱいに開きます。（左下の空気調節レバーを左に動かします）
③ 着火剤（新聞紙）に点火します。焚きつけに火が着いて上昇気流（ドラフト）が起こるまで、少しの間フロントドアをかすかに開けた状態にします。
④ フロントドアを閉めます。
⑤ 焚きつけが燃えてきたらフロントドアを開け、薪を追加します。最初は細めの薪を足し燃焼を促進させます。フロントガラスのエアーウォッシュシステムが機能するよう、薪はフロントガラスから離してください。また、フロントドア、アッシュドアは閉めておきます。
⑥ よく燃えてきたら、プライマリーエアーコントロールで燃焼温度を調節してください。左に動かすと空気が入ってよく燃え、右へ動かすと空気孔が閉まります。

注意：薪の補充時にフロントドアを開けるときは、最初に少しだけ開けてから間隔を置き、それからゆっくりとドアを開きます。こうすることで炉内の煙がなくなり、部屋への逆流を防ぎます。

燃焼温度

高温燃焼：十分に熾きができた状態、または薪がよく燃えている状態で薪を追加し、空気調節レバーを左に動かしてプライマリーエアーコントロールをいっぱいに開きます。高温燃焼は一日に１，２回としてください。高温燃焼によりストーブパイプと煙突を暖め、クレオソートの付着を抑えます。ストーブトップ中央の表面温度の目安は約 260℃です。

中ー高温燃焼：プライマリーエアーコントロールを、開いた状態から右へ少し動かします。

中温燃焼：空気調節レバーをちょうど中間の位置まで動かします。この燃焼温度が標準セッティングで、ストーブの周りに人がいない場合には、この状態が望ましいとされています。

低温燃焼：空気調節レバーを一番右まで動かし、プライマリーエアーコントロールを閉めます。長時間の低温燃焼はクレオソートの付着を促すため、お勧めできません。低温燃焼が継続される場合には、ストーブパイプや煙突をまめに点検してください。ストーブトップ中央の表面温度の目安は約 95℃です。

焚きすぎの注意

焚きすぎとは、燃焼温度が上記温度より高い状態のことを言います。ストーブの損傷を防ぐため、焚きすぎには十分注意が必要です。焚きすぎの状態では、燃焼時間が短くなったり、ストーブまたはストーブパイプからごうごうとうなるような音が聞こえたり、ストーブパイプに変色が見られます。

焚きすぎ防止のため、以下にご注意ください。

ドラフト：引きが強すぎる場合は販売店にご相談ください。
使用燃料：石炭、キルン乾燥木材など、自然乾燥させた薪以外は燃やさないでください。
操作方法：フロントドア、アッシュドアを開けたまま燃やさないでください。
メンテナンス：ガスケットをチェックし、剥がれたり擦り切れたりしたものは交換してください。

焚きすぎ予防のためストーブトップの表面温度は定期的にチェックしてください。焚きすぎが疑われる場合には販売店にご相談ください。**焚きすぎによる損傷は保証対象になりません。**焚きすぎによる損傷には、内部パーツのゆがみや焼損、外部パーツの変色やゆがみ、エナメル部分の損傷が含まれます。

灰の処理方法

灰を処理する際は、ストーブが完全に冷えてから行ってください。灰受け皿がまだ暖かい場合には、革手袋をご使用ください。灰の扱いには十分ご注意ください。

火かき棒などを使ってグレートを動かし、灰を灰受け皿へふるい落とします。アッシュドアハンドルを反時計回りに回してアッシュドアを開け、灰受け皿をゆっくりと手前へ引き、取り出します。灰を処理し終わったら（下記参照）灰受け皿を元の位置へ戻し、アッシュドアをしっかりと閉めます。また、直接炉内からシャベルなどを使用してフロントドアから取り出すこともできます。

灰は金属製のフタ付き容器へ移します。容器の中へ灰以外のものを入れないでください。灰を容器へ移したらフタを閉め、灰を冷まします。容器が熱くなることがありますので、灰を入れた容器は可燃性の床の上には置かないでください。灰の中に残った炭は数日間熱を保つ場合があります。灰が完全に冷えるまでは必ずフタをした状態で、不燃性の床か土の上に置き、可燃物から離しておいてください。木製やプラスチック製の容器、紙袋やビニール袋には決して灰を入れないでください。

メンテナンス

ストーブ温度のチェック

ストーブ表面温度計をストーブトップ中央に置き、表面温度を定期的にチェックしてください。高温燃焼では260℃ぐらいまで、低温燃焼では約 95℃ぐらいが目安です。**260℃を超える燃焼は“焚きすぎ”の状態で、ストーン部分に割れが生じるなど、ストーブの損傷を招く恐れがあります。焚きすぎの状態では絶対に使用しないでください。焚きすぎによる損傷は、保証対象になりません。**

クレオソートの形成と除去について

薪がゆっくりと燃えている状態ではタールやそのほかの有機蒸気が発生し、蒸発した水分と組み合わさってクレオソートを形成します。クレオソートはゆっくりと燃えているストーブの比較的温度の低い煙突に付着し、結果的に蓄積されてしまいます。クレオソートに火が着くと極めて高い温度で燃焼し、煙突にダメージを与えるだけでなく、ときには建物の火災をも引き起こします。ストーブを使用するシーズン中は、２ヶ月に一度はストーブパイプと煙突内を点検し、クレオソートの形成が進んでいないかどうか確認することをお勧めします。クレオソートの厚みが６ミリ以上のときは、煙突火災予防のため煙突掃除を行ってください。

クレオソートの形成を防ぐには

① 乾燥した薪のみを燃やしてください。
② 毎日焚き始めに 35～45 分程度、プライマリーエアーコントロールを全開にして燃やします。
③ 薪を補充した後も、20～30 分はプライマリーエアーコントロールを全開にして燃やします。こうすることで二次燃焼システムが早い段階から有効に機能し、煙道内のクレオソートの形成を最小限に抑えることができます。

フロントガラスが汚れやすい場合は燃焼温度が低く、クレオソート形成の危険性が高いと考えられます。
表面温度が低い部分はクレオソートの形成が進みやすいため、煙突を点検するときは、最も温度が低いストーブとの接続部とトップに近い部分を点検してください。
クレオソートの除去には、使用煙突に合ったブラシを使い、煙突掃除を行ってください。また、シーズン前には、専門業者による点検、掃除をお勧めします。

ガスケット

ガスケットの交換は、使用頻度にもよりますが、通常２～３シーズンに１回が目安です。ガスケットはストーブの気密性を保ち、燃焼効率を上げる役割をします。

ドアガスケット交換手順
古くなったガスケットを外し、ドライバーやワイヤーブラシ等で溝をきれいに掃除します。専用接着剤（ヒートボンド、ガスケットセメント）を溝に注入し、ガスケットを溝に押し込みます。ガスケットは引っ張らないようにしてください。すぐにドアを閉め、ガスケットを溝に定着させます。

ガスケット寸法

	サイズ	長さ
ガラス	3/4”（19 mm）	約 137 cm
フロントドア	3/8”（9.5 mm）	約 152 cm
アッシュドア	1/4”（ 6.4 mm）	約 76 cm

ガラス

ガラスに割れやひびが生じたときは、ストーブを使用しないでください。ガラスに衝撃を与えたり、ドアを勢いよく閉めたりしないでください。

注意：表面に引っかき傷ができるとガラスの強度が落ち、割れる危険性があります。カッターなどの鋭利な刃物、スチールウールや研磨剤を使ってガラスの汚れを落とさないでください。

フロントガラスはセラミック製で熱衝撃に強く、薪ストーブ専用に作られたものです。割れたときには販売店に連絡し、新しいガラスに交換してください。薪ストーブ用に作られたものではないガラスは決して使用しないでください。

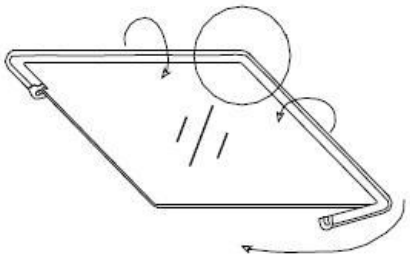
ガラスが割れたりかけたりしたときは速やかに交換してください。交換するときは作業用手袋と保護メガネを使用してください。

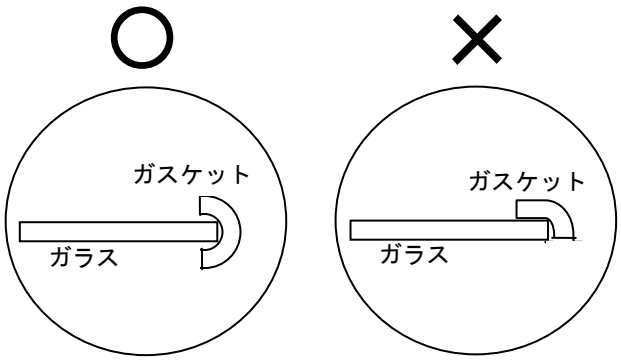
必要に応じ、薪ストーブ専用のガラスクリーナーを使ってガラスの汚れを取り除いてください。ただし、スト

ーブの使用中やガラスが熱いときにガラスを磨かないでください。ガラスを磨くときは、ストーブからフロントドアを取り外し、平らな場所に置いてクリーナーを使うと、液が流れ落ちることなく汚れに浸透します。数分置いたあとでやわらかい布か新聞紙でふき取ります。

ガラス・ガラスガスケット交換手順

① ヒンジピンをドアに残した状態でドアを垂直に持ち上げ、本体からドアを外します。
② 平らな台の上にドアを置きます。
③ ガラスを固定してあるビスとクリップを外します。外しにくい場合はオイルを注します。
④ 割れたガラスを慎重に取り外し、廃棄します。
⑤ 新しいガスケットを付けたガラスをドアへ取り付けます。
⑥ クリップをビスで留め、ストーブへ戻します。





ソープストーンお手入れ方法

ソープストーン本来の美しさを保つために、水、研磨剤を含まない洗剤、やわらかい布を使い、ときどき拭いてください。化学薬品は使わないでください。また、ワックスや、その他の艶出し剤や研磨剤も使用しないでください。ソープストーンの表面を傷つけたり、角を削ることのないように気をつけてください。

ご使用年月の経過とともに、石の表面に薄い茶、赤、黄色などのかすかな色の変化が現れることがありますが、これはソープストーンに見られる自然な反応です。また、正常な使用においても、細い線状のひびのようなものができることがありますが、これらの変化はストーブの性能や安全性に影響を及ぼすものではなく、交換の必要はありません。

鋳鉄のお手入れ方法

乾いた布でほこりを落とし、補修には耐熱スプレーをお使いください。湿らせた布で汚れをふき取る場合には、ふき取ったあとでよく乾かしてください。錆びがある場合はワイヤーブラシで落とします。

エナメル仕上げのストーブにはやわらかい布をご使用ください。落ちにくい汚れにはガラスクリーナーの使用も可能です。エナメル部分を傷つけますので、研磨剤は使用しないでください。ご使用とともに、表面から奥に細かい線が網目状にできる場合がありますが、これは欠陥ではありません。

トラブルシューティング

薪ストーブユーザーが遅かれ早かれ直面する問題は一般的に共通したものですが、それらのほとんどはちょっとした操作方法の調整などで修正が可能です。天候状態がストーブのパフォーマンスに大きく影響する場合には、問題は概して一時的なものである場合が多く、天候が戻れば自然と問題はなくなります。

ご使用中のストーブから適切な熱供給がされているのかどうか疑問に思うのであれば、ストーブパイプの温度を監視することが一番効果的な方法です。ストーブパイプが 200℃であれば、ストーブが十分な熱を供給できている証拠です。ただし、部屋の温度を決定するのはストーブからの熱量だけでなく、家自体の断熱性、気密性、窓ガラスの数や大きさ、建築様式（吹き抜け天井など、熱が分散しやすいスペースの有無を含む）など、全てが影響するということも頭に入れておいてください。

ストーブの性能は設置方法によって影響を受けることもあります。最もよくある原因は、太すぎる口径の煙突を使用していることです。太すぎる煙突はドラフトが起こりにくく、煙の引きを妨げます。とりわけ熱効率のよいストーブの場合には、効率のよい燃焼が困難でもあり、煙道内の温度が低いということは、クレオソートの付着を促進させることにつながります。また、十分なドラフトが起こらないと火が消えてしまったり、煙が部屋のほうへ逆流する原因にもなります。

ドラフトに影響を与えるその他の要因

高気密住宅：高気密住宅の場合には室内の空気が不足し、換気扇や衣類乾燥機などの使用により、さらに状況を悪化させます。外気導入アダプターを取り付けることで問題は解決します。

背の高い木や建物：煙突のトップ近くに高い木や建物がある場合には、煙の逆流が起こることがあります。これは慢性的に起こる場合も一時的な場合もあります。煙突を設置する際には、設置場所近辺にある建物などの位置を考慮する必要があります。

風：一般に、安定した強い風であれば、強いドラフトが起こりやすいと言われます。しかし突発的な風は煙の逆流を招く原因となります。

気圧：一般に、穏やかな日、雨の日、蒸し暑い日などはドラフトが起こりにくいとされていますが、天候が変われば解決するでしょう。

活発な燃焼：ストーブの火が強く、煙突の温度が上昇すると、強いドラフトが起こります。

煙突の部材接続部：点検口や部材接続部などがしっかりと密閉できていない場合、十分なドラフトが起こらない原因となります。

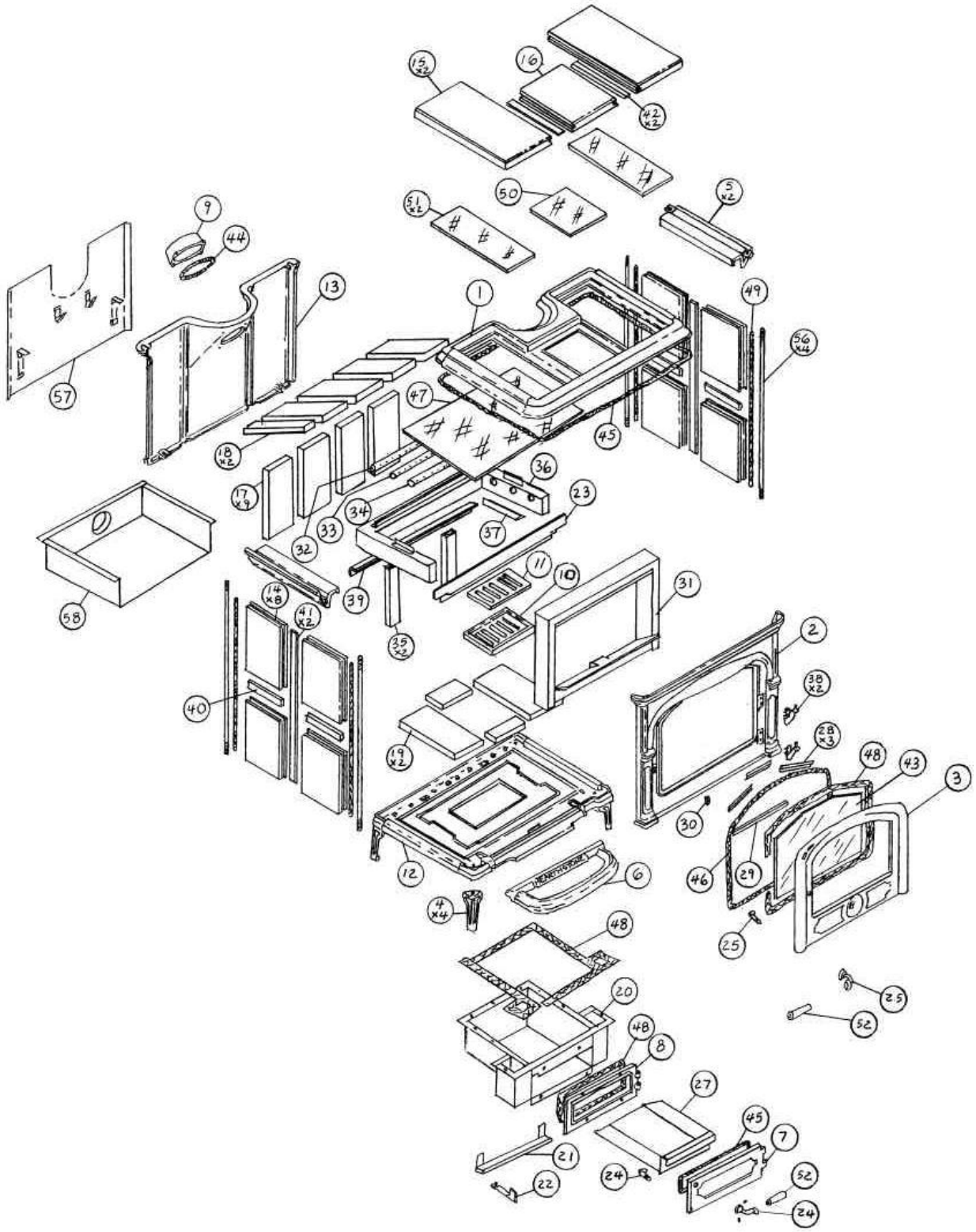
季節：秋口や春の終わりは適度なドラフトが起こりにくい季節です。室温と比べて外気温が低いほうが、ドラフトが発生しやすいと言われます。

ドラフトが簡単に起こらない日もありますが、ほとんどは季節的な要因と煙突が暖まりにくいことがその原因です。そのようなときは、細い焚きつけを使って火をおこし、より速く火力が上がるようにします。煙突が暖まって速くドラフトが発生するよう、こまめに細い薪を補充して火の面倒をみましょう。

トラブルシューティングガイド

問題	考えられる原因	解決方法
煙	操作方法	ドアを開ける前にプライマリーエアーコントロールを１分間全開にしてください。
	煙突が暖まっていない	最初の着火時に細い薪を燃やし、しっかりと煙突を暖めてください。
	煙突の詰まり	クレオソートの付着が進んでいないかどうか点検し、必要であれば煙突掃除を行ってください。
	煙突のサイズ	太すぎる場合：適切な口径の煙突に交換してください。 細すぎる場合：排気ファンを設置するか、適切な口径の煙突に交換してください。
	煙突が短い	煙突を付け足してください。
	煙突接続部の空気漏れ	点検口や部材間の接続部などをしっかりと密閉してください。
	２台以上のストーブによる煙突の共用	２台目以降のストーブは撤去してください。
煙の逆流	操作方法	ドアを開ける前にプライマリーエアーコントロールを１分間全開にし、薪の補充後も数分間全開の状態で燃やしてください。
	燃焼温度が低い	高温燃焼を心がけてください。
	煙突からの逆流	煙突トップを設置してください。
	灰が多すぎる	灰の除去を頻繁に行ってください。
燃えが速い	ドアからの空気漏れ	ドアをしっかりと閉めるか、ガスケットを交換してください。
	グレートが開いている	グレートを閉じてください。
	ドラフトが強すぎる	プライマリーエアーコントロールを閉めてください。煙突の点検をし、必要であればダンパーを取り付けます。
	セメントの劣化	炉内の耐火セメントを充填しなおしてください。
	煙突が長すぎる	煙突を短くするか、ダンパーを取り付けてください。
	煙突が太い	適した口径の煙突に交換してください。
	風の強い立地条件：	煙突トップを設置してください。
	ドラフトが強すぎる	ドラフトが 0.1 W.C. を超える場合はダンパーを取り付けてください。
暖かくない	薪が乾燥していない	最低でも１年間乾燥させた薪をお使いください。
	燃焼温度が低い	高温燃焼を心がけてください。
	屋外でのシングル煙突の使用	断熱二重煙突に交換してください。
	煙突やストーブパイプの空気漏れ・劣化	煙突のチェックをしてください。
	建物からの熱損失	窓のコーキングなどの補修を行ってください。
エナメルのひび	操作方法	焚きすぎが原因です。ストーブの表面温度を頻繁にチェックし、乾燥した薪のみご使用ください。
	ドラフトが強すぎる	ドラフトをチェックし、必要に応じてダンパーを取り付けてください。プライマリーエアーコントロールを閉め、低温燃焼を心がけてください。

パーツリスト



	品番	部品名
1	2610-003	Top Casting
2	2610-004	Front Panel (Prior to June '02 Serial # 006471-009731)
	2610-030	Front Panel (After June '02 Serial #009731)
3	2610-005	Front Door (Prior to June '02 Serial # 006471-009731)
	2610-040	Front Door (After June '02 Serial #009731)
4	2610-006A	Foot (Prior to June '02 Serial # 006471-009731)
	2610-000	Foot (After June '02 Serial #009731)
5	2610-009	Rib
6	2610-010	Ash Lip
7	2010-060	Ash Pan Door
8	2010-050	Ash Pan Door Frame
9	2610-016	Flue Collar
10	2610-017	Ash Grate Frame
11	2610-018	Ash Grate (Top)
12	2610-019	Bottom Casting
13	2610-020	Back Panel
14	1641-301	Side Stone 7 3/4" x 9 1/8"
15	1641-302	Top Stone Left/Right 6 17/32" x 16"
16	1641-303	Top Center Stone 10 3/4" x 11 1/8"
17	3060-426	Firebrick 4 1/2"x 9" x 1 1/4"
18	3060-427	Firebrick 1 15/16" x 9" x 1 1/4"
19	3060-428	Firebrick 5 3/8" x 11 3/4" x 1 1/4"
20	5012-052	Primary Air/Ash Box
21	5012-056	Primary Air Control Slider
22	5012-057	Primary Air Control Handle
23	5012-304	Baffle Support
24	90-73116	Ash Door Latch Assembly (Set Screw, (4) Spacer, Handle Crank, Spring, Door Latch)
25	96-73121	Front Latch Assembly (Set Screw, (4) Spacer, Handle Crank, Spring, Door Latch)
26		Chrome Crank (Included in Ash Door & Front Door Latch Assemblies)
27	5600-024	Ash Pan
28	5600-029J	Glass Retention Clip 3 1/2"
29	5600-029K	Glass Retention Clip 9 7/8"
30	5600-030	Front Door Latch Catch
31	5600-040	Primary Air Manifold
32	5600-041	Secondary Air Pipe (Rear)
33	5600-042	Secondary Air Pipe (Center)
34	5600-043	Secondary Air Pipe (Front)
35	5600-044	Secondary Air Riser Tube
36	5600-045	Secondary Air Manifold
37	5600-046	Secondary Air Pipe Retention Clip
38	96-58652	Hinge Assembly (Phoenix Door Hinge, (2) 1/4-20 Lock Nut, (2) 1/4" Washer –Black)
39	5600-054	Rear Firebrick Retention Bar
40	5000-008	Stone Spline 1/8" x 3/4" x 6 7/8"
41	5000-020	Stone Spline 1/8" x 3/4" x 10 3/8"
42	5000-014	Stone Spline 1/8" x 3/4" x 17 5/16"
43	96-58605	Phoenix Glass Kit Phoenix Glass IR 10 3/8" x 15 3/4" x 5mm, (4 1/3') Gasket: Tape 3/4" Adhesive Backed
44	96-58601	Phoenix Gasket Kit (2 3/4')Gasket: Rope 1/4" Black Adhesive Backed, (4 1/2')Gasket Rope 3/8" Adhesive Backed, (4 1/3') Gasket Tape 3/4" Adhesive Backed, Gasket Glue
45		Ash Pan Door Gasket 3/8" Medium Density (Included in Gasket Kit)
46		Front Door Gasket 3/8" Black (Included in Gasket Kit)
47	3120-210	Ceramic Blanket
48		Glass Gasket 3/4" (Included in Gasket Kit)
49	3110-051	Corner Gasket 1/2" Low Density Rope
50	3120-282	Ceramic Board 9" x 9 5/8"
51	3120-284	Ceramic Board 5 1/8" x 14 3/8"
52	90-71100	Wooden Handle Assembly (Wood Handle, 1/4-20 x 3 1/4" Bolt, (2) 1/4" Lock Washer)
56	5210-3060	Threaded Rod 1/4-20 x 20 1/2"
57	96-58602	Rear Heat Shield (Optional)
58	96-56322	Outside Air Kit (Optional)